

「めっき業界」で初めてMFC Aを導入し、コストダウンを実現

株式会社三ツ矢（本社：東京都品川区 草間 誠 一郎 社長 従業員 302 名 <http://www.mitsuyanet.co.jp/>）は創業昭和 6 年の、めっき加工のパイオニアです。各種電子・電気部品、自動車部品などへの高信頼度めっきを行っています。

工場は、本社所在地の五反田、そして八王子、甲府、米沢の 4 拠点があり、五反田工場と米沢工場は、それぞれ 2006 年 2 月にエコステージ 1 を取得し、その 1 年後にはエコステージ 2 にステージアップしました。また、五反田工場は同時期に ISO9001 品質認証も取得しました。

そして 2009 年秋、五反田工場（鈴木 善 廣 工場長 従業員 70 名 http://www.mitsuyanet.co.jp/f_gotanda.htm）は、めっき業界で初めてMFC Aを導入されました。責任者である鈴木工場長にお伺いしました。

<MFC A導入の目的（もしくはきっかけ）をお教え下さい。>

鈴木氏：エコステージそして、ISO9001 とコンサルしていただいたKAZコンサルティングさんから、MFC Aという「負の製品の見える化」のツールの話を聞き、当社は創業以来、徹底的なムダの排除を行ってきたので、MFC Aを導入してもそれこそムダだと思いました。しかし、この不況下、少しでもムダを排除できコストダウンにつながるならと導入しました。

<MFC A導入による具体的な効果はございましたか？>

鈴木氏：MFC Aは、当社の 2 つのメインラインで導入・検証しました。最初に「金めっき」のラインで分析しました。さすが、めっき材としての金は高価なものなので、「負の製品」としての「マテリアルコスト」はごく少なく安心しました。しかし、「正の製品」の範疇ですが、お客様からの要求以上の「めっき膜厚」が金額にするとかなりの金額になっているということがわかった。これに関しては、現在技術部門が中心となって改善処置を行っています。また、「ニッケルめっき」は、金とは逆にめっき材のコストは安価であるために、めっき材の回収などにまだまだ改良の余地があることがわかりました。また、加工費など人件費が「見える化」され、各部署で作業の効率化などの改善活動が活発化されています。

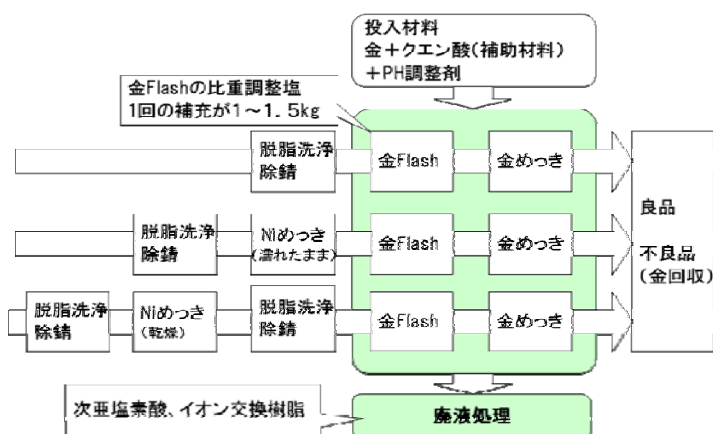
<活動の中で、ご苦労された点・難しかった点などがございましたか？>

鈴木氏：コンサルタントの方々が駆使されているMFC Aツールの使い方は、当初は何をされているかよくわからなかったです。各プロセスのエネルギー使用量や、人件費などは正確に分割できないものが多いのですが、まずは、結果を出すことを考え適切と思える案分をしました。

<それでは、今後の取り組み計画をお聞かせ下さい。>

鈴木氏：MFC A活用により、ムダに対する具体的な数値が出てきたことによって、効果も数値であらわせる。それは改善するための設備投資を判断するための重要なデータとなる。今後は、他のラインにも、そして他工場にも展開して行こうと考えております。

<金めっき工程>



<Niめっき物量センター>

